



# 目次

まえがき

## 第一章 アリストテレスの生涯・著作・学説

一	その生涯……………	一
	(一) その生い立ち(三)	
	(二) アカデメイア在学時代(三)	
	(三) 遍歴時代(六)	
	(四) 学頭時代(九)	
二	かれの著作……………	二
	(一) 第一種に属するものについて(二四)	
	(二) 第二種に属するものについて(二六)	
	(三) 第三種に属する諸著について(二七)	
	(四) 現存著書の名前(三〇)	
三	かれの学説の概要……………	三九
	(一) 学問の性質・区分・方法(三五)	
	(二) 形相と質料、形相優位の思想(三六)	
	(三) 靈魂論の場合(三七)	
	(四) 第一哲学の場合(四〇)	

目次

(五) 実践哲学の場合(四三) (六) 制作術の場合(四四)

## 第二章 学問とその方法

### A 学問について

- 一 感覚・経験・技術……………四七
- 二 経験と理論——實際家と理論家……………五〇
- 三 棟梁的な術……………五三
- 四 真の知恵——原理の追求……………五五
- 五 第一原理に関する学……………五八
- 六 知恵の愛求(哲学)の起こりと尊さ……………六〇
- 七 理論と実践と制作の別……………六三
- 八 三つの理論学——まず自然学と数学……………六五
- 九 理論学の中の第一の学……………六六
- 一〇 第一の哲学の存在必然性……………六九
- 一一 実践と制作とのちがい……………七一
- 一二 認識と実践知と技能……………七三

一三	実践学の目的	四
一四	哲学とこれに似て非なる弁証と詭弁	五
	B 学問の方法——論理学	七
一五	研究の道具——分析論	七
一六	概念論——主語と述語	七
一七	述語の諸形態(カテゴリー)	八
一八	判断——肯定と否定	八
一九	名詞と動詞	八
二〇	論証とその前提	八
二一	推論の原理——矛盾律	七
二二	推論(三段論法)とその原則	九
二三	三段論法の格	九
	(一) 第一格(九)	
	(二) 第二格(九)	
	(三) 第三格(九)	
二四	帰納からの推論(帰納法)	九
二五	分割法に対して	九
二六	既知からの出発	一〇

二七	「自然において」と「われわれにとって」の別……………	一〇一
二八	認識と論証……………	一〇五
二九	定義と論証……………	一〇七
三〇	知的諸能力の発生……………	一〇九
第三章 第一哲学(形而上学)……………		
一	第一哲学の対象……………	一一五
二	存在の諸義……………	一二七
三	諸存在と実体……………	一二四
四	存在の学は実体の学……………	一二七
五	第一義的存在——実体……………	一二八
六	実体の諸義……………	一三一
七	第一実体と第二実体……………	一三七
八	実体の特徴……………	一三八
九	第二実体——種と類……………	一四〇
一〇	イデア説批判……………	一四一

一	一	個物は定義されない……………	一四四
二	二	定義(本質規定)の統一性……………	一四七
三	一三	形相と質料の融一……………	一五〇
四	一四	可能態と現実態……………	一五四
五	一五	生成の種類と条件……………	一五八
六	一六	転化の諸原因とその追求……………	一六〇
七	一七	運動と可能性……………	一六六
八	一八	運動の不滅性……………	一六七
九	一九	運動の第一原理……………	一六九
〇	二〇	第一の不動の動者——神……………	一七三
一	二一	神の観想的生活……………	一七七
第四章 自然学(心理学を含む)……………			
一	一八三	一 自然的存在……………	一八三
二	一八五	二 自然の諸義……………	一八五
三	一九三	三 自然の目的性……………	一九三

四場所	一九七
五時間	二〇三
六転化の諸義	二〇七
七運動の種類	二一〇
八完全な運動	二一三
九単純物体とその運動	二二六
一〇天界の永遠性	二二八
一一宇宙の構成	二三一
一二遊星の運行	二三三
一三動物身体とその諸部分	二三〇
一四人間とその手	二三四
一五生物界にも美	二三八
一六靈魂の定義	二四一
一七靈魂と身体	二四四
一八靈魂の諸能力	二四六
一九感覺とその対象	二四九

二〇	思考能力——理性	二五三
二一	受動的理性と非受動的理性	二五四

## 第五章 実践哲学（倫理学と政治学）……………二五九

### A 倫理学……………二五九

一	最高善とその学（国家学）	二五九
二	その研究者の心得	二六二
三	最高善は幸福	二六五
四	人間特有の善	二七〇
五	徳とはなにか	二七三
六	二種の徳とその習得	二七六
七	徳は中を狙う	二七九
八	諸徳の中間性	二八二
九	徳全般としての正しさ（正義）	二八四
一〇	徳の部分としての正義	二八八
一一	配分上の正	二九二



一二	是正的な正	二九六
B	政治学	二九九
一三	共同体とその支配者	二九九
一四	家族から村落へ	三〇一
一五	国家の発生——人間はポリス的動物	三〇三
一六	国制の種類	三〇八
一七	貴族制とその変種	三一二
一八	中流階級による政治	三二五
一九	理想的国家の存立条件	三三〇
二〇	理想的国家の構成部分	三三六
二一	国民教育の基本問題	三三〇
二二	青少年の教育	三三四
第六章	技術——弁論術と作詩術	三四三
一	弁論術について	三四三
二	美について	三四七

三	詩人と他の著作者たち	三〇九
四	詩と模倣	三五三
五	喜劇、悲劇、叙事詩	三五六
六	悲劇について	三五八
七	悲劇の構成部分	三六〇
八	筋——急転と発見	三六四
九	叙事詩と悲劇	三六九

索引